

高齢者の意識に基づいた高齢者虐待定義の再検討

—高齢者が重要であると思っている生活内容を中心に—

○ 同志社大学 任 貞美 (8499)

キーワード：高齢者虐待、高齢者虐待の定義、高齢者

1. 研究目的

2006年、高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（以下、高齢者虐待防止法）が施行され、高齢者の権利擁護とQOLに関する関心が高まっている。しかし、高齢者福祉施設での高齢者の生活は画一的な規則により制限されたり、生活の主体である高齢者が自由に計画を立て能動的な生活を送ることが難しい(大和田 2007)。また、高齢者本人の低い権利意識や介護者による虐待により高齢者福祉施設での高齢者のQOLは高いと言えない(橋本 2007)。このような現状が発生するひとつの要因として、高齢者虐待防止法の虐待定義の曖昧さを挙げられる。虐待定義の曖昧さは、「虐待かどうかわからない」といった虐待認識のばらつきを生じさせ、虐待に対する共通の社会的対応を難しくする。また、現在の高齢者虐待定義は高齢者が認識したような虐待の問題とその影響を伝えることが難しいとされている(田中 2005)。しかしながら、既存の高齢者虐待定義に関する研究の多くは、高齢者虐待定義の理論的な検討に留まっており、高齢者の意識をもとに高齢者虐待の定義を再検討した研究は少ない。

そこで、本研究は、「高齢者のニーズを高齢者虐待定義」に反映させるために、まず高齢者が自分の生活において重要であると思っている「生活・生活援助のあり方」を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

調査対象者は東京都にある高齢者大学（高齢者の生涯教育機関）に通っている65歳以上の高齢者450名とした。研究方法としては、質問紙を用いた留め置き調査を実施した。事前に調査への同意が得られた2か所の高齢者大学の高齢者に調査説明を行い、調査依頼文・調査票・返信用封筒を配布した。そして、回収箱に投函するよう依頼した。調査期間は2012年9月5日から15日までである。分析方法は全42項目の「生活内容」について、回答形式は①「とても重要（4点）」から「全く重要ではない（1点）」の4件法とし、それぞれの回答を単純合計したものを「現在重要な生活得点」とした。②「老人ホーム入所などの集団生活であっても満たされないと我慢できない重要なものだけに○をつけ」、0, 1のダミー変数とし、それぞれの回答を単純合計したものを「老人ホームに入所しても重要な生活得点」とした。

3. 倫理的配慮

本研究の目的、調査の趣旨について口頭と書面にて、説明し、個人情報等の取り扱い、協力の有無によって不利益が生じないこと、調査票の返信をもって調査の同意を得たものとみなす旨を説明した。また調査用紙は個人が特定されないよう記号化し、回答者自身が返信用封筒に入れ投函することとした。なお、本研究は日本社会事業大学社会事業研究所研究倫理委員会の承認を得て行った。

4. 研究結果

回収された411名（回収率91%）の調査票のうち、未記入などの欠損データを除いた326名を分析対象とした。全42項目の「生活内容」に関する質問について、「現在重要な生活得点」と「老人ホームに入所しても重要な生活得点」の平均値と標準偏差を求めた。その結果、「現在重要な生活得点」に関しては、全ての項目の歪度が負の値を示し、全項目の平均値は3.49、中央値は3.73だった。最も平均値が高かった項目は「問13：一人の人間としての個性が尊重される」（ 3.75 ± 0.557 ）、最も平均値が低かった項目は「問37：過去の思い出をポジティブに捉える」（ 3.15 ± 0.749 ）であった。

「老人ホームに入所しても重要な生活得点」に関しては、全項目の平均値は0.66、中央値は0.87であった。平均値が最も高かった項目は「問17：一人きりになれる時間と場所がある」（ 0.85 ± 0.355 ）、平均値が最も低かった項目は「問37：過去の思い出をポジティブに捉える」（ 0.44 ± 0.497 ）であった。さらに、各回答の0・1のダミー変数の平均点「0.5点」を基準として「0.5点以上」の項目は「老人ホームに入所しても重要な生活」、「0.5点未満」は「我慢できる生活」として二分したところ、5項目を除外したすべての項目が「老人ホームに入所しても重要な生活」として示された。

5. 考察

高齢者が自分の生活において、重要であると思っている「生活・生活援助」の構造を把握するため、高齢者にとって、「現在重要な生活」得点と「老人ホームに入所しても重要な生活」得点の比較検討を行った。その結果、全ての項目が高齢者にとって「現在、重要な生活」であることが明らかになった。また、「問33 今まで経験してこなかった趣味等に挑戦してみる」等の5項目を除外したすべての項目が「老人ホームに入所しても重要な生活」として示された。これらをもとに、現在、高齢者にとって重要な生活は、老人ホームに入所しても変わらないということが考えられる。換言すると施設入所などの環境の変化によって高齢者が重要であると思う生活内容は、大きく変わらないという点、つまり施設入所によって高齢者の基本的な生活に関するニーズは変わらないことが示唆された。